大会挨拶

早稲田大学副部長
河村秀平

第15回早慶バドミントン定期戦が行なわれるに際して御挨拶を述べる機会を与えられ大変光栄に存ずる次第です。

本大会は両校の一年間の技術，精神，および身体の修練の成果を投入して覇を争うことであり，正々堂々お互に全力を尽し立派な大会とすることを期待します。

私は部長海外留学中の第2回定期戦に初めて代理として参加して以来の関係でありますが，当時10年後を期して上位進出を夢に画いたのでありましたが未だその大望は果されておりません。

この大会を通じ両校相携えバドミントン界に貢献するよう更に一層の精進を進めたいと念願します。

OBで平常顔を合せる場合の少ない方でもこの定期戦だけは何としても都合して旧交を暖め，技を競い，往年の妙技を披歴して親交を厚くし，又現役部員諸君とも接する等大きい意義があります。

更に両校現役にとっては夏の訓練の成果をまとめ，或いは秋のリーグ戦への幕あけであります。又卒業後の思い出として大きな意味を持ちそれはこの定期戦を身を以って体験すること以外にないことを断言致します。

本大会は慶応義塾大学側の運営によるものでありますがその御苦労に感謝し，大会の成功を祈ると共に，我々は協力を誓う次第であります。

"21世紀をリードする電子工学の綜合学園" 新学期4月・10月

郵政省認定
無線従事者国家試験(2級二次)免除

通産省認定
電気工事士国家試験(学科実技)免除

短大卒以上の待遇で就職できる唯一の実力養成校

○電子工学科　無線技術士
○電子計算機科　プログラマー
○半導体科　TR・集積回路
○放送技術科　カラーテレビ
○電器技術科　電気工事士
○電気工学科　二・三種電気技術者

各科昼夜間部・先着順書類選考

学校法人 電子学園　校長前国務大臣　安井謙　就職斡旋、学割発行、宿舎完備　学則〒150円

日本電子専門学校

東京都新宿区百人町2－180（国電大久保駅南口前）　TEL（363）7761～3

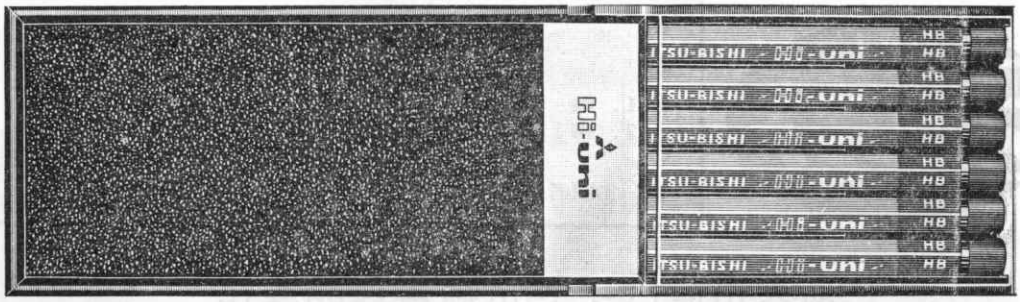
大　会　挨　拶

慶応義塾部長

平　　良

早慶対抗定期戦は本年をもって第15回目を重ねることになった。定期戦開始のころにくらべてこの数年間の義塾の劣勢はおおいがたく，しかも格差が年々増してしまっていさえする。わたくしは，義塾の劣勢や敗北を予想して書きたくはないが，卒直にいつて，本年を含めてこの数年間つづいた谷間を抜けだすにいたらないと思う，仮に義塾に勝利があったとすれば幸運か相手方の油断によるものでいずれにせよ好ましいことではない。こうした状態で当番校として早稲田を迎えなければならないことを申しわけないと思うと同時に，それにもかかわらず多くの好意を示してくれるわたくしたちの兄弟である早稲田に対して深く感謝の意を表したい。もとより，わたくしたちは非力ながら全力を使って努力をするが，期待に応えられないにしても，明年明後年においてはより充実した力をもって対戦するであろうことを約束したい　そして，数年後には，この定期戦の本来の意味——すなわち学生バドミントンの最高を競い合うものに育てて行きたいと思う。義塾はもとよりかつて恵れない状態にあった経験をもつ早稲田の先輩諸君も，どうか，一日でも早くこのような状態を抜けるために御助力あらんことを特におねがい申し上げます。

＊世界の鉛筆メーカーに先がけて成功・ミクロのシン



こく書けて減りの少ない・なめらかな書き味

ハイ-ユニ

9H→6B·17硬度/1ダース1200円 1本100円

三菱鉛筆

三菱鉛筆株式会社

監　督　挨　拶

早大監督　菊　地　利　明

定期戦と云えば我々はすぐ早慶バドミントン定期を思い出すほど恒例になって来たが，ここ3年ほどは早大優勢のうちに試合が行なわれている。これも15年前よりの慶大の方々の全面的な援助が実りつつあると云うことで，その恩に報いると云うことと，やがてはある慶大のまき返しを充分予想して，我々は毎日の練習に励んで居る。

先日行なわれた東日本学生選手権では早大創立以来のシングルス優勝者を出し，意気盛んにあがっている時ではあるが，全体的には私の見た目ではまだスタミナ不足と，攻撃力の弱さがみうけられる。

私共は与えられた持駒によって試合にのぞみ，勝たねばならない。試合の結果と云うものは，どんな形で表現されても〝勝〟と〝負〟しかない。それ故部員一人一人が一日も早く自分よりも強い選手を追い越すべく協力し合って進まねばならない。それには練習時を自覚し不得意なものに対して，積極的に練習をし一層の努力と工夫が肝心である。

終りに，私も今年第15回を迎えるにあたって，いまのところ15回目の連続出場をねらって（出してもらえるものとして）多少の練習はしているが，流れ出る汗をふき取った後のさわやかさを感じるたびに，現役時代がよみがえって来る。どうかＯＢ現役，共々早慶定期戦はこれから年々顔ぶれが大きく変っては行くが，目的は常に同じものをもっていると云う高い理想のもとに互いに実力全部を出し切った試合をしようではないか

尚，今大会当番校の慶大関係者の方々には心より感謝の意を表する次第である。

監　督　挨　拶

慶応義塾監督　吉　田　格　麿

早慶定期戦も今年で15回目を迎え，秋季シーズン突入の感があります。

過去14回の戦績では慶応大学が11勝３負で圧倒的にリードをしてはおりますが，ここ３年間は大差をもって，慶応大学が連敗をしております。

特に私が監督を引受けて以来一度も勝利の美酒にひたっておりません。

長い間下積の苦労を重ね現在の早稲田大学の地位がある如く，又関君(早稲田大学主将)が東日本学生選手権でシングルに優勝した戦績を見るにつけ，この競技は忍耐と努力以外の何物でもないと思います。

我々も過去の記録などは捨て，他校の数倍もの練習に耐えうる体力と精神力を養う試練の道を歩み続けなければならないと思いますが，必ずや努力次第で再び慶応大学の黄金時代がやって来ると信じております。

早慶戦は日本の私学を代表する対抗戦であり，勝負は如何なる悪条件のもとでも勝たねば何の価値もありません　その為にも夏季合宿での成果をこの試合に発揮し，なんとか連敗にストップをかけ，これを契機として一部に復帰し汚名挽回をねらっております。

両校の日頃鍛えた技術と精神力を発揮し熱戦が展開される事を期待しつつ筆を置く次第です。

第15回を迎えた早慶定期戦

慶応義塾教授　兵　藤　昌　彦

第15回定期戦を迎えるに当って，一筆書いて欲しいと浜野主務から依頼されました。御引受けいたしまし時は丁度通信教育部夏期スクーリングの体育実技「バドミントン」種目の授業中でした。それに先約の青森ねぶた祭行のため，就筆が遅れ，浜野君に大変心配かけたことを御詫びいたして，想い出すままに筆をすすめることにいたします。

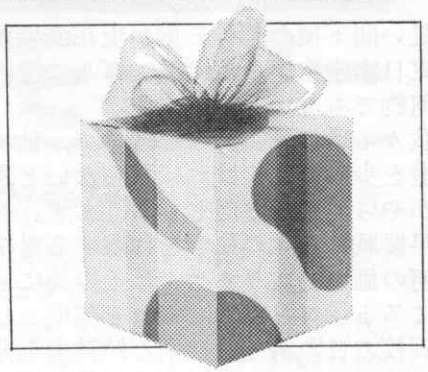
第1回から第14回まで観戦，又関係者の1人として感想やら想い出を綴ってみることにいたしました。

何分にも14年前からのことですので不確かなことが沢山出て参りますことでしょうが，誤りのところは訂正いただき，御不礼の段は御許しを，最初に御願いいたしておきます。

定期戦の起りは，むずかしいものではなく単に，他のスポーツが行なっているようにバドミントンも定期戦をやろうではないかということから始じまったものであります。

両校の部の歴史の年数からみて，慶応は早稲田より一日の長があります関係上，その勝負の結果は自ずと判定できました。然しその差がどのくらいかが問題であり，面白味でありました。最初の頃は大差でしたが年を追ってその差が縮まり，いつになったら，逆転するかが興味の中心となってきました。第何回であったか回数を忘れましたが，目黒の杉野短大体育館で行なわれた時，試合の結果は慶応のものとなりましたがその差は僅かでした。早稲田は〝今年こそは今年こそは〟（今年こそはと頑張らないものはないでしょうが）と1年でも早く勝ちたいと強烈に頑張って来ていることが伺われる一事がありました。それは目黒駅二階東横食堂での試合終了後の懇親会の席上で，早稲田の監督津田君（？）の挨拶の中に「今日の試合では負けましたが，応援（OB等の）の意気では慶応には負けては居りません」とありました。私はこの早稲田のOBのファイト恐ろしや，早稲田に名をなさしめる時はそう遠い将来ではないと痛感いたしました。その時の食事はささやかなものでしたが，この「早稲田精神」は何にも優る御馳走でした。この言葉は未だ耳に残って居ります。

大切なお金で
上手なお買物
●受けて重宝　三越の商品券
10,000円券迄各種／全国本・支店売店共通
三越
■本店　東京都中央区日本橋室町1－7
■支店　銀座・新宿・池袋・丸の内
(以上東京)大阪・京都・神戸・高松
松山・仙台・札幌



年を逐う毎に早稲田の意気の上りようは凄いものがありました。一方は老舗の暖簾に安心していた傾向なきにしも非ずの感がありました。

学生バドミントン界の王者として長い間リードしていた慶応は栄枯盛衰の常無しの通りで，この2・3年早稲田に連敗いたして居ります。遂にその目的，勝った時の喜びは現役よりもむしろＯＢの方にあったように見受けられました。当時の現役諸君に叱かられるかも知れませんが。

毎回ＯＢ戦後も多数のＯＢが残られて応援，懇親会にまで出席，一方慶応はＯＢ戦が終るとさっさと帰えり，最後まで残るものは数名，この数の差でわかるように，十有余年に恒る連敗から宿敵を破り得たのはＯＢの力によるものと思われます。

札幌市で行なわれたインカレの時，新聞に「名門早稲田破る」とありました。その当時の早稲田は強い部類ではありませんでした。北海道の新聞記者は他のスポーツと同様にバドミントンを思っていたのではないかと思います。奥井会長がこの記事をホテルでみられて一日も早く名門早稲田に相応しい強いチームにしなくてはと心配されて居りました。この事は早稲田ばかりでなく慶応のＯＢも知らないと思います。

私に一つの夢があります。それは定期戦の当初からのもので，インカレ（学生試合の頂点）で，早慶両校で日本一を争うことであります。

（現在二部であえいでいる慶応が一日も早く一部に上って，）

それには両校部員は勿論，練習に練習を重ねてＯＢの絶大な応援と併せて実現していただきたいものです。

現役，ＯＢ諸君の奮闘を期待して居ります。

最初に申し上げた如く御不礼の段御許し乞う

8月10日

名実ともに…NO.1

森永ハイクラウン

70円／チョコレート

特選純ミルク　ストレート　クランチ　カシューナッツ　マロン

早慶定期戦に寄せて

早稲田大学OB　波田野忠正

日本バドミント界のビッグエベントの一つである早慶定期戦も早くも15回目を迎へ日頃そえんの塾の先輩同輩諸兄と時には亜流の話を交え１日を楽しく過ごすのを待っているのは私一人ではあるまい。一方現役諸君も連日の酷暑の中で練習に励み試合当日を待ち望んでいる事であろう。

思えば定期戦始って以来11連敗と過去の成績が示すように私の現役の頃や卒業して間もない頃の定期戦は早稲田人にとっては常に敗者の屈辱を味う為に存在するようで何と気の重い事であったろう。現在では早稲田の三連勝とやや早稲田が上昇気運にあるが過去慶応が築いた実力を伴った実績には程遠く、早稲田の現役諸君はこの連勝が本当に実力の違いであると声を大にして言える迄日々の努力を怠ってはならない。

今日慶早両校共宮永，堺の両君のように日本のトップレベルの選手を輩出しながら早稲田が一部にいても上位進出がならず又慶応は何んとなく意気消沈の状態でありこのシーズンのトップを飾る定期戦を期して現役諸君の一層の精進が望まれる。身近にいる前述の両ＯＢの技術的なもの精神的なもの又平素スポーツマンとしてのマナー等吸収すべきものは山程あると思う。

当日の試合に於いては全力を出し切って試合をしてもらいたい。日頃の技はコートの上で発揮しコンパに移ってからは反省会の様な形式に終る事なく共に塾歌，校歌を合唱し年１回の両校諸兄の歓談の場としたいものだ。両校先輩同輩現役諸君日々精進し無より有を生すべく尚一層の努力をしようではありませんか。

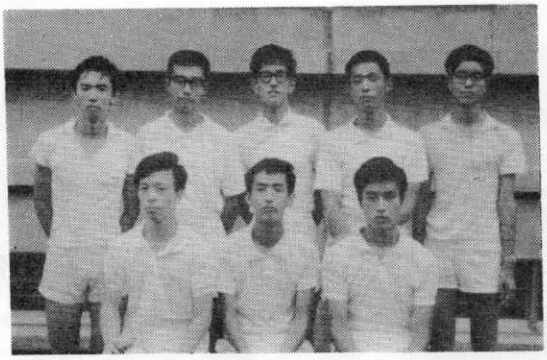
慶応義塾OB　朝倉康夫

昭和28年の第１回から数えて今年は15回目，神田国民体育館で産声を上げたこの定期戦が，毎年両校の立派な体育館で交互に開催され，かくも盛大に育って来た事を思うと当時を顧りみて，感慨に堪えない。然も，当時，実力的には全く問題にならなかった早大が，この定期戦の回を重ねるに歩調を合せてすくすくと成長し，今や形勢逆転　今年こそは〆と塾関係者を歯軋りさせている事はまことに「壮」とするものがある。それにひきかえ，かつて胸を貸す程の気持で定期戦に臨んだ塾が，何時連敗記録から這い出せるかと云う有様，それも二部リーグ転落で戦うと云う事では，この定期戦の主旨から考えても，全く残念でならない。

然し，之も15年と云う歴史の中で描いた一つのサイクルと考えよう。両校の現役選手諸君よ，これからの15年歴史は今迄の様な大きな波ではなく，小さな波連勝連敗のないサイクルをお互に切磋琢磨し合って描いてもらい度い。それが早慶両校バドミントン部発展につながるのではないか

慶応敗けるな〆

早稲田学院メンバー



1	主　　将	塚田真人	3年	開進第三中学出身
2	マネージャー	鈴木雅雄	3年	文京第十中学出身
3	副　　将	徳重　芳	3年	白幡中学出身
4	選　　手	田中康二	2年	目黒東山中学出身
5	〃	松下高輝	2年	青山中学出身
6	〃	鯨岡雅高	2年	井荻中学出身
7	〃	柴田澄雄	2年	目黒第九中学出身
8	〃	桐生　孝	2年	明星中学出身

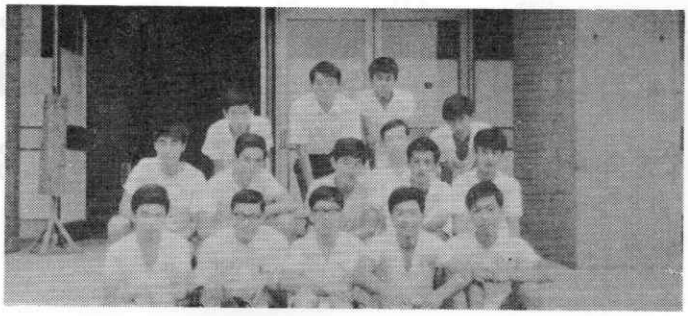
主　将　抱　負

塚　田　真　人

15回早慶戦を迎え我々部員一同今までの連敗に終止符をうち，汚名を挽回せんものと打倒慶応高の意気に燃え練習に励んできました。昨年はシングルスで逆転され苦杯をのまされましたが，今回こそは伝統の大会に必勝を期し現役諸兄のよき御指導に応えるべくがんばるつもりです。

我々のプレーは大学生のプレーには遠く及びませんが，高校生らしいきびきびした試合をお見せしたいと思います。

慶応義塾高等学校メバンー



1	主　　将	水　鳥　秀　和	3　年	慶応義塾普通部出身
2	マネージャー	安　部　雅　文	3　年	杉並区立井荻中学出身
3	副　　将	鈴　木　英　夫	3　年	慶応義塾普通部出身
4	選　　手	高　橋　良　和	3　年	渋谷区立上原中学出身
5	〃	浅　下　信　行	3　年	慶応義塾普通部出身
6	〃	肥　沼　英　司	3　年	〃
7	〃	那　波　立　郎	2　年	〃
8	〃	梶　田　行　雄	2　年	〃
9	〃	松　尾　陽　光	2　年	福岡市立平尾中学出身
10	〃	坂　木　敏　久	2　年	大宮市立東中学出身
11	〃	西　村　彰　夫	2　年	千代田区立麹町中学出身

主　将　抱　負

水　鳥　秀　和

早慶バドミントン定期戦の開催，部員一同皆慶んでおります。この早慶定期戦も，高校の方は今回で5回目と，大学の方に比べるとまだまだ始まったばかりではありますが，試合内容では，互角あるいはそれ以上のものを皆さんにお見せしようと選手一同張り切っています。

さて，過去4回の事を記録等を見ながら考えてみますと，早慶両高校の努力がしのばれるような気がします。早稲田の方々もこの早慶定期戦を目ざして練習をしたと思いますが，僕等もしました。連勝記録が『5』になるようにがんばります。それでは，コートで会いましょう。

稲門クラブメンバー

1	津田信一	昭和28年	商学部卒
2	河辺享	28年	〃
3	深野茂	29年	〃
4	菊地利明	30年	教育学部卒
5	川口高誉	30年	文学部卒
6	中西省三	30年	〃
7	田口幸雄	31年	商学部卒
8	河崎一幸	32年	〃
9	水口淳	32年	理工学部卒
10	富山武司	32年	政経学部卒
11	松田守弘	32年	理工学部卒
12	福井正康	32年	商学部卒
13	矢部行一	33年	〃
14	栗田裕巨	33年	〃
15	富山信幸	33年	政経学部卒
16	麻生卓司	34年	〃
17	波田野忠正	34年	法部卒
18	小林亘	35年	〃
19	前田伸生	35年	商学部卒
20	伊藤幸博	35年	〃
21	小川昌之	37年	法学部卒
22	井垣和太	37年	商学部卒
23	石井彰	37年	〃
24	堺栄一	38年	〃
25	七沢宏光	28年	政経学部卒
26	今井清兼	39年	〃
27	世古叡	39年	〃
28	安松良之	39年	〃
29	吉良悠一	40年	〃
30	田端仁	40年	〃
31	中山広明	41年	〃
32	登坂洋	41年	商学部卒
33	玉井斗南	41年	〃
34	折井勲	42年	政経学部卒
35	安沢尚	42年	〃

三田クラブメンバー

1	森 友	徳兵衛	昭和19年	経済学部卒
2	吹野	家寿吉	21年	〃
3	橋本	公雄	26年	〃
4	前田	鑑二	27年	〃
5	小宮	淳宏	27年	〃
6	広田	敏秀	28年	〃
7	朝倉	康夫	29年	〃
8	徳用	佳夫	30年	法学部卒
9	岡	道明	30年	〃
10	金坂	俊平	32年	経済学部卒
11	吉田	格麿	32年	〃
12	貴志	淳	32年	法学部卒
13	越川	啓	33年	経済学部卒
14	上杉	佳子	33年	法学部卒
15	尾関	守広	34年	経済学部卒
16	福田	竜太	34年	〃
17	伏島	英明	34年	〃
18	佐竹	由祁生	35年	〃
19	野島	義	35年	文学部卒
20	中村	智	37年	〃
21	山田	善康	37年	〃
22	臼井	宣之	37年	経済学部卒
23	宮永	武司	38年	商学部卒
24	石神	与喜	38年	〃
25	久米	融	38年	経済学部卒
26	渡辺	輝久	38年	〃
27	鈴木	明	39年	法学部卒
28	田中	進	39年	〃
29	井上	洋之助	39年	経済学部卒
30	長谷川	敏彦	40年	商学部卒
31	本山	秀和	40年	経済学部卒
32	轟	勝彦	40年	〃
33	山本	洋彦	41年	法学部卒
34	加藤	俊武	41年	商学部卒
35	水野	美奈子	41年	文学部卒

早稲田大学メンバー

	部長	岩片秀雄	早稲田大学教授	
	副部長	河村秀平	〃	
	監督	菊地利明	昭和30年教育学部卒	
	コーチ	河崎一幸	昭和32年商学部卒	
	〃	堺栄一	昭和38年 〃	
1	主将	関一誠	(教育学部4年)	聖学院高出身
2	マネージャー	鬼宗利	(文学部4年)	仙台高 〃
3	副将	橋本太郎	(教育学部4年)	熊本高 〃
4	選手	林弘治	(〃)	新潟商高 〃
5	〃	大森茂樹	(政経学部4年)	新潟高 〃
6	〃	橋本剛司	(〃 4年)	仙台二高 〃
7	〃	西村正徳	(法学部4年)	新潟高 〃
8	〃	金木修	(商学部4年)	芝高 〃
9	〃	白井敏久	(〃 4年)	目黒高 〃
10	〃	佐藤清志	(教育学部3年)	弘前高 〃
11	〃	峰岸敏雄	(政経学部3年)	小石川高 〃
12	〃	藤川竜雄	(教育学部3年)	仙台高 〃
13	〃	阿江伸育	(商学部3年)	神戸高 〃
14	〃	山田康夫	(政治学部3年)	白鷗高 〃
15	〃	五十子繁	(理工学部3年)	墨田川高 〃

16	選　手	後藤伸治	(社会学部2年)	新潟商高 〃
17	〃	近藤　繁	(社会学部2年)	木更津高 〃
18	〃	沖野是也	(〃 2年)	向丘高 〃
19	〃	武岡秀之進	(文学部1年)	関東学院六浦高 〃
20	〃	工藤祐二	(社会学部1年)	弘前南高 〃
21	〃	佐倉和明	(文学部1年)	仙台高 〃
22	〃	斉藤正喜	(社会学部1年)	山形東高 〃
23	〃	杉本　準	(教育学部1年)	武生高 〃
24	〃	林　真史	(社会学部1年)	熊本高 〃
25	〃	森沢邦昭	(文学部1年)	小石川高 〃

大学女子メンバー

1	選　手	宮崎登喜子	(文学部4年)	武蔵高出身
2	〃	磯井　緑	(〃 4年)	捜真高 〃
3	〃	大月てる子	(〃 3年)	熊谷女子高 〃
4	〃	三村由美	(〃 3年)	日比谷高 〃
5	〃	村上悦子	(教育学部3年)	神戸高 〃

主　将　抱　負

早稲田大学
バドミントン部　主将　関　一　誠

「早慶戦」それはどの競技においても，その各々のスポーツをリードするものでありそのスポーツの歴史を物語るものであると言って，過言ではありません。バドミントン界にあっても然りであります。その早慶バドミントン定期戦も，回を追って遂に15回を数えるに至り，いち時代を担う我々一同は早慶戦の歴史と発展に帰依し，誇りと自信をもって望もうとしています。

その映えある定期戦に万全の態勢で望み全力を注ぐことは当然のことで，安易な気持で終ってしまったらこれ程悲しいことはありません。

我々はこの定期戦に過去3連勝をしました。しかし慶応のそれに比べては，足もとにも及ぶものではありません。これを誇るにはまだ何年かの年月を要しますが，対戦成績の並ぶ日が早く実現することを夢み，ただひたすら，自分達の時代にその1つの駒を進めようと必死になって練習に練習を重ねております。我々の1年の時には慶応を倒すこと，「打倒慶応」ということを心身に植えつけられ，それを果すことができました。しかし，それが果された今，今度は，「それに追いつき追い越せ」というのを合い言葉に，大きな目標として進んでいます。その目標に到達すべく，今年も合宿に，練習に励んでまいりました。その成果を遺憾なく発揮し，早慶戦に全力を挙げ好試合を展開し，後にも先にも恥じることのない勝利の冠を手に握ることを約束します。

早稲田大学バドミントン部の紹介

東南アジアからの留学生数名を含むバドミントン同好の志が任意団体の同好会をつくり，定まった練習場もなく，不規則な活動をしていたが，これがわが部の前身である。このメンバーのなかに現津田会長がいた。会長はバドミントン部として体育局へ所属することを熱望し，体育局へ日参して必要な準備をした。なかでも一番むづかしいことは部長の決定であった。しかし，わずかなツテを頼り，理工学部岩片教授にお願いした。そして創部以来16年になる現在も部長としてご指導を頂いている。

津田会長の努力が実って，昭和27年正式に早稲田大学体育局バドミントン部になると同時に津田会長が自ら初代キャプテンになった。

体育局所属の部になったとはいえ，練習場には恵まれず，小さな体育館の3階で体操，卓球，バドミントンの3部が交代で練習するため，わが部の練習時間は夕方から夜であった。この体育館は天井が低く，ハイクリヤーが打てないうえ，天井の両側に突きだしがあってシャトルが乗ってしまいやりにくかった。コートもダブルスコートとシングルコートがそれぞれ1つづつしかとれなかったこと天井に乗ったシャトルをとることで下級生は殆んどコートに入れなかった。

部歴が浅いうえ練習不足も手伝って27年～29年頃リーグ戦では1部と2部を往復していたが，女子菊地（旧姓山内）が全日本学生選手権ベスト8，菊地（現監督）が東西対抗単出場と個人戦で活躍した。

29年岩片部長が外遊されることになりその間の部長を河村教授（現副部長）にお願いした。同時に津田現会長が初代監督に就任。32年，菊地現監督に就任し，わが部初の推薦選手である矢部がキャプテンとなり，常住の2部脱出を試みたがキャリヤ不足には勝てなかった。

39年秋以来9シーズン2部に低迷したが，ＯＢ現役一丸となって努力した結果，34年秋念願の1部入りを果した。時の主力選手は，小林主将，小川，小木，堺であった。以後36年春一度2部へ落ちたが秋には復帰し現在に至る。

早慶定期戦は28年第1回以来毎年9月に行なわれているが，第1回から第8回頃迄は慶応の一方的な勝で胸を借りるばかりであったが9・10回と接近し，第12回目にして初めて胸を借りた親方を破り恩を返すことができた。しかし，現在迄の対戦成績は3勝11敗と大きく負けている。又，関西の主力校，関西大学，関西学院大学とも定期戦を行ないお互いの技術の向上と親善をはかっている。

スタートが比較的遅かったわが部ではあるが，最近ユーバー杯優勝の福井コーチ，トマス杯主将の堺，ガネホ出場の吉良等の国際的な指導者，選手を生んでいる。

現役の女子については後で述べるが，現在までの女子の活躍については紙数の都合で割愛せざるを得ない。いずれかの機会に述べることにして許していただきたい。最近弱くなったといわれている男性権を強調した訳ではない。

現在のわが部の総数は41名。女子は7名である。毎日2時からの記念会堂の練習には授業の関係上，20数名で行なっている，部員数が多いので今年からＡＢＣＤ，4ブロックに8名づつ置き，1カ月に2度入れ替戦を行ない，Ｄの選手は早くＣに上がろうとＣの選手は早くＢに上がろうという具合に皆しのぎをけづっている特に，入れ替戦の時は，目の色を変え，下がるまい，上がろうと，すさまじいものである。現在はＡグループに，関，橋本(太)，大森，林，鬼，西村，阿江，後藤と，4年生がほとんどで下級生の少ないのが淋しい。しかし紙一重の差でＢグループに橋本(剛)，佐藤，藤川，杉本，近藤，峰岸，武岡，佐倉と続き，Ａグループも決して油断できない状態である。今年はわが部で初めて東日本学生選手権大会で主将の関が単で優勝し，春のリーグ5位という不調からインカレ，秋のリーグ戦に大いに期待を残してくれ，わが部に活気を呈してくれた。

また今年の新入生も高校時代の経験者だけでも10数名入部し，インターハイでのめざましい活躍者はいないが，お互いに競争すれば1部リーグ戦初の優勝も間近い感がある。女子は部員数が少ない上経験者もわずかで昨年2部に落ちている状態であるが特に1年生が練習熱心なので，1部復帰も近いであろう。

慶応義塾メンバー

部長	平良	慶応義塾教授	
副部長	森谷雅美	〃	高校教諭
監督	吉田格磨	昭和32年経済学部卒	
コーチ	鈴木明	昭和39年法学部卒	
〃	田中進	〃	
〃	井上洋之助	〃	経済学部卒

1	主将	千葉健司	(法学部4年)	緑ケ丘高出身
2	マネージャー	浜野巌	(商学部4年)	千歳高 〃
3	副将	門倉洋	(〃)	長野高 〃
4	選手	大嶋俊次	(〃)	慶応高 〃
5	〃	余野木勉	(法学部4年)	春日部高 〃
6	〃	河崎不二雄	(〃)	東海高 〃
7	〃	渡辺清司	(経済学部4年)	神戸高 〃
8	〃	山本次生	(法学部3年)	聖光学院 〃
9	〃	林幸一郎	(〃)	下関西高 〃
10	〃	西沖晃	(〃)	鷺宮高 〃
11	〃	須々木林	(商学部3年)	長田高 〃
12	〃	平井克英	(法学部2年)	上市高 〃
13	〃	佐藤信夫	(〃)	秋田高 〃
14	〃	佐々木慶男	(〃)	秋田市立 〃

15	選　手	古沢信次	(経済学部1年)	灘　高 〃
16	〃	平原　進	(法学部1年)	春日部高 〃
17	〃	鈴木雅生	(　〃　)	春日部高 〃
18	〃	福島由明	(　〃　)	緑ケ丘高 〃
19	〃	小野沢利夫	(商学部1年)	慶応高 〃
20	〃	浅葉研一	(　〃　)	聖光学院高 〃
21	〃	中村一郎	(　〃　)	富山高 〃
22	〃	下出健二	(法学部1年)	大聖寺高 〃
23	〃	栗城幸輔	(　〃　)	会津高 〃
24	〃	中村久男	(　〃　)	磐田南高 〃
25	〃	菅原　元	(商学部1年)	茅ケ崎高 〃

大学女子メンバー

1	選　手	北島綾子	(文学部3年)	慶応女子高出身
2	〃	五味幸子	(文学部2年)	〃
3	〃	富田鮎子	(　〃　)	東京女学館 〃
4	〃	三原桂子	(法学部2年)	桜蔭高 〃
5	〃	川崎美耶	(文学部1年)	慶応女子高 〃

主　将　抱　負

慶応義塾体育会
バドミントン部　主将　千　葉　健　司

我が部は，今年で創立25年を迎え，早慶戦も回を重ね15回目の対戦となります。しかし，最古の伝統をもつ我が部も，関東大学リーグ戦において，2部に転落して既に2年を経過し，又早慶戦では，3連敗をしています。

一方，早稲田は，1部でしっかりした地位を築き，上位進出を狙い，エースである関君は，東日本学生選手権で堂々優勝を成し遂げてまでいます。

今や，慶応と早稲田との差を認めない訳には行きません。しかし，慶応が黙って早稲田の今日の姿を見ていたのではありません。現役は勿論，監督さん初め，コーチの方々と充実した練習を重ね努力して来ました。

その結果，慶応の未来を担う1，2年生が着実に伸び特に2年の平井，佐藤，佐々木らは早稲田の選手に一泡ふかせんと意気に燃えています。必らずや，彼らの活躍で好試合が展開される事と思います。どうか先輩の方々，慶応の闘志ある戦い振りと，未来の明るい事を，その目で確かめてください。

最後にこの伝統ある定期戦が更に発展し日本のバドミントン界をリードする大会に成る事を期待します。

慶応義塾体育会バドミント部紹介

我が部は，体育会の中では戦後の新しい部であり，昭和26年前田主将の時，宿願の体育会に入会が決まりました。

部が創立されたのはそれ以前の昭和17年の事であり，兵藤昌彦先生や広田兼敏氏初め森友，山本(故人)佐藤，諸岡，寿，仲地先輩諸氏らの努力に因るものでした。

創立されて今年で丁度25周年を迎える事となりますので実に今の現役の生まれる以前の事であり，日本の大学中，最古の伝統を誇っています。

創立時は，施設用具の面で，大変な苦労があった事だろうと思います。又，太平洋戦争によって，中断されたにもかかわらず，終戦と同時に部を復活させたその情熱は，測り知れないものがあります。きっと戦争中も，バドミントンの事は頭から離れなかったのではないでしょうか。

この様なパイオニア時代の人々から伝統を受け継ぎ，新しい伝統を造りあげて来た人々の努力も又忘れ難いものがあります。これら先輩諸氏の努力は，唯，塾のバドミントン部に限らず，我が国のバドミントン界の育成，発展に大いに貢献しました。

そして，その間，〝陸の王者〟慶応は数々の輝かしい記録を残して来ました。全日本学生選手権大会では3回優勝。関東大学リーグ戦においては，昭和22年（秋）から昭和25年（秋）まで7連勝し通算12回優勝を成し遂げて来ました。又この間，多くの名プレヤーを生み出しました。この度のトーマスカップの大会に日本代表選手の一人として，出場され，現在世界的プレヤーとして活躍されている宮永先輩は言うに及ばず，全日本学生選手権で，不滅の大記録とも言えるシングル3連勝を成し遂げた広田先輩，トーマス・カップ大会の代表選手であった岡・越川先輩ら数多くの名プレヤーを生み出して来ました。

しかし，この様な輝かしい伝統をもつ我が部も，入学難の折ここ2，3年部員数がめっきり減り有望選手が仲々入ってこれないのが現状であり，大学から始めた者をもレギュラーに仕立てなければならない有様です。大学から始めた者をレギュラーとして活躍できる選手にまで育てあげる事は，本人にとっては勿論，コーチの方々や上級生にとっても並大抵の事ではありませんし，仲々一部の選手と対等に戦える所までは行けません。

そして，部員数が足りない事は，当然戦績にも影響し昭和40年の関東大学季リーグ戦の入替戦で，日本大学に負れ，創部以来初めて2部に落ちるという屈辱を受け，今だに1部に復帰できずにいます。又，早慶定期戦においては連敗を屈しており，対戦成績は慶応の11勝3敗となっております。

過去の輝かしい時代を過ごして来た先輩の方々は，この現状を歯がゆく思ってか，「現役は何をしているんだ」と言われる事があります。確かに昔の無敵であった慶応の姿からすれば，今の姿は〝月〟と〝スッポン〟程の差があるのかもしれません。しかし部員も，監督さん初め，コーチの方々とこの屈辱を拭い去ろうと懸命に努力しているのです。そして今年は，夏のトレーニング合宿と激しい練習を重ね，部員一同一致団結し，秋には一部復帰を成し遂げようと頑張っています。

幸い今年は，ここ2，3年になく，1年生が多数入部し，平原，鈴木，福島，浅葉らが夏のトレーニング合宿を通じ，順調に伸びて来ました。又，2年の平井，佐藤，佐々木らにも慶応の中心選手としての自覚が生まれて来ました。きっと彼らは慶応の未来を背負って立つプレヤーになってくれる事でしょう。

この様に，下級生が順調に伸びて来ましたので我が部にもやっと光が差しかけて来たような気がします。先輩の方々，どうかこれから慶応に期待してください。

以上，男子部員を中心に述べて来ましたので，ここで女子について，少の述べたいと思います。

昨年，女子は4部から3部に上りましたが，部員が7名と少なく苦しいのが現状です。

しかし，少ないながらも，大嶋コーチのもと夏のトレーニング合宿と，一生懸命努力してきました。もし女子が，2部そして1部を狙うならば，まず，部員を増やす事が先決問題となってくるでしょう。

早慶戦によせて

法大主将　樋口一春

第15回早慶バドミントン定期戦が開催されますことを御祝いします，伝統あるこの定期戦は私共学生界にとって非常に有意義であると思います。現在日本のバドミントン界における学生の活躍は大きく注目されております。御存知のように女子ユーバー杯では初参加にして優勝杯を獲得し世界の王座につき男子トーマス杯では日本選手は大活躍をし今や日本のバドミントン界は世界に大きくはばたいております。その地位を確固たるものにするのは学生のレベルアップにあるといえましょう。その中で第15回早慶定期戦が行なわれますがこの定期戦が学生バドミントン界に果してきた功績は大きいと思います。

学生界最高の伝統をもつ慶応大学，一部校では上位進出可能な早稲大学，この両校の対戦は回を重ねるごとに充実し，一層面白みのある大会となり今回も相当白熱した試合になることでしょう。先にも言いましたが学生の我が国バドミントン界に果す役割は極めて大なるものがあると思います。早慶両大学の熱意と努力は現在の栄誉を将来に引継ぐ原動力であり，本大会が学生バドミントン界の力強い息吹きとなることを期待し成功されんことを望みます。

早慶戦の想い出

早稲田大学文学部　39年卒

富山陽子

早慶バドミントン定期戦15周年を記念してお祝い申し上げます。

「早慶戦の想い出」について書くように言われましたので，思いつくままに書かせていただきます。

私にとって，早慶戦のみならずバドミントンの想い出は，苦しくて，辛いことばかりでした。勉強と練習との間の精神的なくるしみ，トレーニングの体のつらさ，私自身の性格からくる人間関係の葛藤，試合のわずらわしさ。つらかったなあとつくづく想いかえします。

バドミントンがたのしかったのは，中学の1年生，2年生の頃だけだったんじゃないかと思います。何にも考えず，何にもわずらわされず，ただバドミントンすることをたのしんでいた。兄にねだって，特に赤い皮をグリップにまいてもらった軽いラケット。まっ赤なボストンバッグ……。たのしかったなあと想いかえします。

「早慶戦の想い出」からはずい分かけはなれてしまいましたが，書いているうちにむかしを想い出してしまったものですから……。

早慶戦の想い出……。男子の方々の場合は知りませんが，女子の場合は，何かおまつり気分の，勝負は二の次にしての，たのしい集まりだったように思います。日曜日の記念会堂の珍らしさ，はなやかな会場の雰囲気，悲壮感のない，心地よく競争心をくすぐる対抗意識，等々。何か，ずっとむかしの，たのしく過ぎ去った，晩夏の思い出。そんなのが私にとっての早慶戦でした。

思　い　出

早稲田大学　32年卒　**松　田　守　弘**

9月になると毎年やってくる定期戦，秋の訪れをシャトルコックで感じさせる早慶定期戦もはや15回を迎えたかと思いますと，第1回の神田体育館での試合が昨日のことのように思い出されて感無量です。当時早稲田は大学の正式の運動部としてここの声をあげたばかりの部で，学内でも弱小の部でした。片や慶応はリーグ戦やインカレで常に優勝を競い合う日本バドミントン界のトップクラスの実力保持校でしたので，我々早稲田とは実力的に相当のひらきがありましたが，意気と粘りでは慶応に劣らないよう十分に早稲田野人の精神を発揮したものでした。以来慶応さんには色々と教えていただき，この恩返しをいつかはしようと部長先生諸先輩，後輩，現役学生が一丸となって努力した末，64年に慶応さんにやっと土をつけることが出来た，その時は本当に心から喜びたかったが，双手をあげては喜べなかったのである。何故なら早稲田が強くなって勝ったのでなく慶応が弱くなったので勝てたのである。我々はあくまでも日本を代表する実力ある慶応大学バドミントン部に勝つことが念願だったのである。現在2部で低迷をつづけている慶応，又一部にいるとはいえBクラスの早稲田両校共に実力を世間にほこり常に早慶定期戦が日本バドミントン界のメインエベントとして恥しくないように強くなってほしいのである。何はともあれ定期戦での再会を楽しみに定期戦の成功と両校の健闘と発展を祈ろう。

早稲田大学　36年卒　**伊　藤　幸　博**

社会人になってから大部分の人はバドミントンから遠ざかりがちになり，ＯＢとして早慶戦はその意味で大変貴重な存在であると考えます。早慶戦が近づくと今迄顔を出さなかったＯＢ連中がノコノコと練習に出て来るからです。今から思えば私達の現役時代は二部でしたし，慶応は一部でしたから実力からしていつも大差をつけられて敗れていましたが，終った後に慶応の方々から「早く一部へ来てくれよ」という言葉は耳から離れませんでした。この言葉を励みに練習を重ね現在のようになったといっても過言ではないと思っています。しかし当時の実力の差からしてこんなに早く主客転倒するとは全く夢の様です。ＯＢの一人として嬉しい限りですが私達の前にはまだ多難なというより最も困難なことが一つ残っていることを忘れてはならないと思います。

最後にこの早慶戦が学生そして日本のバドミントの最高の権威ある試合となることを祈っております。

早稲田大学　41年卒　**登　坂　　洋**

今年も早慶定期戦がやって来ました。この日の為にＯＢは全国から馳せ参じ，好プレー珍プレーに沸き，現役も慶応そして早稲田だけには負けまいとの対抗意識のもとに行なわれ，早慶両校のみに与えられた素晴しい行事であります。

私達の現役は，「慶応に追いつき追い越せ」が，合言葉でした。1年の時にはかなり迫ったかに思えたその力も，2年の時には惨敗を喫して部員一同が坊主になり心機一転練習に励み，それが3年の時のやや番狂わせとも言える勝利を生んだものと思われます。以来3連勝を続けているわけですが，まだまだ慶応の連勝記録を破る為には，今後共努力していかなければなりません。

近年バドミントンの国際試合が多くなってまいりましたが，早慶両校の選手がこの定期戦を踏台とし，大きく世界に飛躍することを期待して居ります。

慶早戦に寄せて

慶応義塾
昭和34年卒　福田龍太　鹿島道路
KK勤務

昭和34年3月卒業以来，私は土木会社の現場勤務となった後日本中の人里はなれた所ばかり歩いていた。私はリーグ戦や個人戦ではさっぱり勝たなかったが不思議と慶早戦になると特別のファイトが沸き塾生時代には無敗を保っていた。もっとも当時はみな目をつぶっていても勝てる位レベルに差があったが，それにしても慶早戦に出ること又そこで勝つことは特別に嬉しかったものだ。

昭和41年私は8年振りに東京へ戻って来たのだが，その間の事はわずかな文通による以外ほとんど知ることが出来なかった。唯早稲田は我々が現役の頃知っているチームよりはるかに強力なものになり，塾よりも強くなったと云うことのみ風のたよりに聞いていただけでそれも私にとっては全部を本気で聞くわけにはいかなかった。

41年6月の中頃だったが都内の夜間工事の監督をしていた時，突然私の所へ今年の慶早戦のOBの部で出場しないかと連絡があった時は，はじめはびっくりしたが，次ぎに涙が出る程嬉しかった。私は現場にいる時からホワイトカラーのサラリーマンとちがって測量杭を打ち込んだり穴堀りやあげくのはてはセメントかつぎまでさせられていたので体力的には未だおとろえていないつもりだった。それからの毎日は自らすすんで力仕事ばかりしていたので他の現場員や土方のおじさんに一体どうした風のふきまわしだろうかとからかわれたが私にとってどうせやるなら往年の慶応ボーイの意地を慶早の若い者にみせ特に弱体になった塾部員の為に活力を与えなければと思った。

試合当日私のペアーとなった伏島（34年卒）も私と同じ考えをもっていたらしく3カ月間トレーニングしていたから俺は大丈夫だがお前は平気かと問われた。私はこれなら行けると思い約40分全力をしぼって兎に角勝つことは出来たがあの苦しみにくらべたら穴堀りの方がよっぽど楽なような気がした。

我々の試合後現役戦に入ったが，聞いていた話よりはるかにその実力に差があった事，塾生が一生懸命やっているにもかかわらずそのようにみえなかった事，あまりの事に私は外へ飛び出してしまった。試合後早稲田の方達は決しておごった風もなくやっと慶応に勝てるようになった事は慶大に大きな起因があると云われた時は本当に感激した。ここにスポーツマンシップの本当の意義あるのではなかろうか。この感激はつまり私の塾生活のほとんどがバドミントンで勉強は部員たるの資格を維持する為落第しない様に努力したたまものの様な気がし今はこうであってよかったと思う。

あれからもう一年たってしまった。私は今年も又出場したいと願っているが私は敗けてもいいしかし現役の諸君は早稲田のみんなに恥かしくない立派なゲームをしてもらいたい。